

短 報

ユズリハの分布と太平洋側における北限 (大橋広好^a, 佐々木 豊^b, 大橋一晶^c)
 Hiroyoshi OHASHI^a, Yutaka SASAKI^b and Kazuaki OHASHI^c: The Northern Limit of
 Distribution of *Daphniphyllum macropodum* Miq. (Daphniphyllaceae) on the Pacific
 Side of Japan

ユズリハの分布と北限について全国的な文献をみると, 本州 (中, 南部) 以西 (大井 1953, 1965, 北村・村田 1971, 大井・北川 1992), 宮城県から西の太平洋側 (奥山 1964), 宮城新潟以南 (倉田 1971, Noshiro 1999), あるいは福島県以南 (杉本 1961, 大場 1989) などの諸説がある. また, 北限について分布図を見ると, 奥山 (1964) は太平洋側では福島県南部沿岸から飛んで多分宮城県八景島, 日本海側では対馬を示している. 倉田・濱谷 (1971) の図には太平洋側では福島県南部と中部の沿岸に各 1 点と宮城県雄勝町八景島に当たる位置に 1 点が打たれ, 日本海側では佐渡が北限となっている. Horikawa の図 (1972) では分布域は太平洋側は福島県以西, 日本海側は福井県以西で島根県隠岐にも分布点がある.

太平洋側ではこれまでユズリハ天然分布の北限地として宮城県雄勝町八景島 (北緯38度33分. 本文の緯度は国土地理院地図閲覧サービスの数値を基礎として, 30秒以上を1分に切り上げて分までの単位で示した) が知られている. この島の植生は地元の研究者杉山順二氏によって注目され, ユズリハの自生は Sugaya (1957) によって確認され, さらにモチノキ, タブノキ, トベラ, テイカカズラなどの暖地性常緑植物群も同島に天然に野生することが判明した. この群落は1964年に国の天然記念物「八景島暖地性植物群落」として指定された. 最新の分布については「宮城県植物目録 2000」(宮城県植物誌編集委員会 2001) をみると, ユズリハは県内の暖地に点在し, 沿岸部に多く, 八景島以北でも本吉町と気仙沼市から記録されている. この中では気仙沼市松岩が最も北に位置する.

気仙沼市と本吉町でアカガシ自生地を調べた際に, その多くの地点でユズリハの生育が観察された (大橋他 2006). 今回の調査によって, 新たに見いだされたユズリハの自生地は



Fig. 1. *Daphniphyllum macropodum* Miq. with young fruits, wild in *Pinus densiflora* Siebold & Zucc. and *Quercus serrata* Thunb. forest at Matsuzaki-urata in Kesenuma-shi, Miyagi Prefecture (photo on 14 Sep. 2005).

気仙沼市大島の外畑 (北緯38度52分), 本土側で松崎浦田 (北緯38度52分) 2カ所 (この内の1カ所は「宮城県植物目録 2000」の松岩と同じ), 松崎片浜 (北緯38度52分), 松崎高谷 (北緯38度52分) である. いずれもほぼ同じ緯度に位置する. これらのユズリハはいずれも天然分布と思われる. この中で気仙沼線松岩駅の北にある松崎浦田のアカマツ・コナラ林とヒノキの植林からなる丘陵地は天然のアカガシ生育地であるが, 特にユズリハの



Fig. 2. Young shrubs of *Daphniphyllum macropodum* Miq. at the same habitat as Fig. 1 (photo on 14 Sep. 2005).

多いことが注目された。ユズリハは成木から実生まで各成長段階の個体が観察され、明らかにこの場所で天然更新が続けられている (Figs. 1, 2)。この生育地の植生については大橋他 (2006) を参照されたい。なお、東北大学標本館 TUS 所蔵の北限地の証拠標本を資料 1 にあげる。

次に冒頭で紹介した分布図を補充しておきたい。太平洋側の分布については新北限地を含めて宮城県に多くの分布が知られるようになった。福島県植物誌 (福島県植物誌編さん委員会 1987) には広野町と富岡町だけが記録されている。このため宮城県南部との間にはかなりの不連続な地域があるように見える。しかし、福島県から宮城県南部にいたる沿岸地帯のカシ林を詳しく調査した吉岡 (1956) の記録によれば、ユズリハはシラカシ-ヤブツバキ群落とクロマツ-ヒサカキ群落に出現している。いずれもアカガシを含む群落であり、カシ林にユズリハはかなりふつうに出現するのではないかとと思われる。宮城県気仙沼のアカガシ北限地におけるユズリハの生育とよく似た状態にあると思われる。証拠標本が

ないが、福島県から宮城県南部との間は連続した分布域であると考えられる。東北大学標本館所蔵の宮城県産の証拠標本を資料 2 にあげる。また、これまでに発表されている最も詳細なユズリハの分布図 (倉田・濱谷 1971) に宮城県の産地を加えておく (Fig. 3)。

日本海側の分布北限についても問題があると思われる。上に紹介した全国的な記録と分布図からみると、ユズリハは太平洋側で日本海側よりも北上している。しかし、望月 (2000) の「秋田県植物分布図」をみると、秋田県南西部に 1 カ所の産地が記録されており、これが天然分布であるならば、ここが日本海側北限であると同時に種としてのユズリハの北限となるだろう。この位置は望月の分布図から推定すると象潟 (北緯 39 度 10 分) 辺りではないかと思われる。ユズリハの分布はアカガシ (大橋他 2006) と違って、日本海側で太平洋側よりも北上している。

資料 1. ユズリハ太平洋側北限地の証拠標本リスト

宮城県気仙沼市 Kesenuma-shi, 大島 Ōshima,

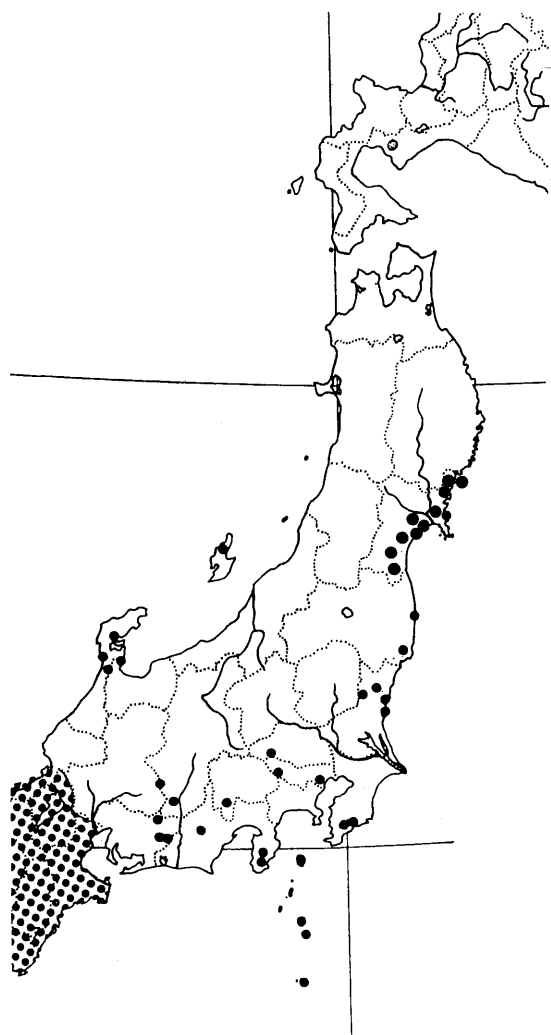


Fig. 3. Distribution map of *Daphniphyllum macro-podum* Miq. in Japan based on Kurata and Hamaya's map (1971) showing mainly central and northern Honshu. Addition is made on Miyagi Prefecture by slightly larger circles.

外畑 Sotohata: 外畑外浜間道路の国民休暇村入口の
手前, 13 Sep. 2005, Ohashi, Sasaki & K. Ohashi
69112 (TUS); 国民休暇村遊歩道, 13 Sep. 2005,
Ohashi & K. Ohashi 69139 (TUS). 気仙沼市 Kesen
numa-shi, 松崎 Matsuzaki: 松崎浦田 Matsuzaki-
urata, 民家屋敷林, 14 Sep. 2005, Ohashi, Sasaki &
Kazuaki Ohashi 69920 (TUS); 気仙沼線トンネル南
側入り口左側の東斜面, 12 Sep. 2005, Ohashi,
Sasaki & Kazuaki Ohashi 69158 (TUS); 気仙沼線ト

ンネル南側入り口左側の南斜面, 14 Sep. 2005,
Ohashi, Sasaki & Kazuaki Ohashi 69164, 69166,
69167, 69168, 69171, 69172 (TUS); 浦田-片浜, 14
Nov. 1996, Sasaki 96-0684 (TUS); 松崎高谷
Matsuzaki-takata, 8 Oct. 2005, Y. Sasaki 05-0167
(TUS).

資料 2. 宮城県 (気仙沼を除く) のユズリハ証拠 標本リスト

本吉町 Motoyoshi-cho, 大谷 Oya, 小金沢 Kogane-
zawa, alt. 50 m, 7 Dec. 2005, Sasaki & S. Murakami
05-0202 (TUS), loc. cit. alt. 75 m, 9 Dec. 2005, Sasaki
05-0240 (TUS); 津谷 Tsuya, 登米沢 Toyomazawa, 2
Dec. 1995, Sasaki 95-0901 (TUS). 雄勝町 Ogatsu-cho,
八景島 Isl. Yakeijima, 31 July 1956, S. Sugaya & al.
(TUS), 28 Apr. 1957, S. Sugaya & T. Kyogoku (TUS);
船越 Funakoshi, 20 Aug. 1955, J. Sugiyama (TUS);
波板 Namiita, 10 Aug. 1993, Sasaki 93-0299 (TUS);
尾ノ崎崎, 23 Aug. 1993, Sasaki 93-0299 (TUS). 牡
鹿町 Oshika-cho, 寄磯浜 Yoriisohama, 寄磯 alt. 80
m, 25 July 1976, Sasaki 96-0064 (TUS). 石巻市
Ishinomaki-shi, 折浜 Orihama, alt. 40 m, 8 Jan. 1988,
Sasaki 88-0004 (TUS). 河南町 Kanan-cho, 須江 Sue,
山根 Yamane, 4 Apr. 1994, Sasaki 94-0004 (TUS).
塩竈市 Shiogama-shi, 塩竈神社社叢, 1 May 1959,
Numabe (TUS). 仙台市 Sendai-shi, 青葉山植物園, 6
Sept. 1962 K. Syozi (TUS); 国見 Kunimi, 26 June
1992, K. Yonekura 543 (TUS). 村田町 Murata-machi,
関場 Sekiba, 浮島, 17 Oct. 2000, Y. Ueno 38668
(TUS). 角田市 Kakuda-shi, 高倉 Takakura, 高蔵寺, 2
May 1989, T. Mori 6126 (TUS).

引用文献

- 福島県植物誌編さん委員会 1987. 福島県植物誌.
福島県植物誌編さん委員会, いわき市.
Horikawa Y. 1972. Atlas of the Japanese Flora, I.
Gakken Co., Ltd., Tokyo.
北村 四郎, 村田 源 1979. 原色日本植物図鑑
木本編 II. 保育社, 大阪.
倉田 悟 1971. 日本林業樹木図鑑. 第 3 巻. 地
球出版, 東京.
倉田 悟, 濱谷稔夫 1971. 日本産樹木分布図集.
日本林業樹木図鑑 第 3 巻. 地球出版, 東京.
宮城県植物誌編集委員会 2001. 宮城県植物目録
2000. 宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員
会, 石巻.
望月陸夫 2000. 秋田県植物分布図 第 2 版. 秋
田県環境と文化のむら協会, 秋田県五城目町.
Noshiro S. 1999. Daphniphyllaceae. In: Iwatsuki K.,
Boufford D. E. and Ohba H. (eds.), Flora of Japan
IIc: 31-32. Kodansha Ltd., Tokyo.
大場秀章 1989. ユズリハ科. 佐竹義輔, 原寛,
巨理俊次, 富成忠夫 (編). 日本の野生植物.
木本 II. 272-273. 平凡社, 東京.

- 大橋広好, 佐々木 豊, 大橋一晶. 2006. アカガシの北限. 植物研究雑誌 **81**: 173-187.
- 大井次三郎. 1953. 日本植物誌. 至文堂, 東京.
- 大井次三郎. 1965. 改訂新版日本植物誌 顕花篇. 至文堂, 東京.
- 大井次三郎 (著)・北川政夫 (改訂). 1992. 新日本植物誌 顕花篇. 改訂版. 至文堂, 東京.
- 奥山春季. 1964. 原色日本野外植物図譜 2. 春から初夏の植物 (II). 誠文堂新光社, 東京.
- Sugaya S. 1957. *Spicilegium Sendaicum* IV.

Ecological Review **14**: 229-234.

- 杉本順一 1961. 日本樹木総検索誌. 六月社, 大阪.
- 吉岡邦二 1956. 東北地方森林群落の研究第5報. カシ林北限地帯の森林群落. 福島大学学芸学部理科報告 **5**: 13-23.
- (^a東北大学植物園津田記念館,
^b986-石巻市
^c大阪大学大学院薬学研究科分子生物学分野)

シロダモの分布と太平洋側における北限 (大橋広好^a, 佐々木 豊^b, 大橋一晶^c)

Hiro Yoshi OHASHI^a, Yutaka SASAKI^b and Kazuaki OHASHI^c: The Northern Limit of Distribution of *Neolitsea sericea* (Blume) Koidz. (Lauraceae) on the Pacific Side of Japan

シロダモの分布については宮城県と佐渡島から西 (奥山 1964), 宮城・新潟両県以南 (倉田 1968) あるいは宮城・山形両県以南 (北村・村田 1987) の他に本州 (大井 1953, 1965, 初山 1989, 大井・北川 1992) とだけ示しているものもある. 太平洋側の分布を見ると, 未だ岩手県からの報告はなく, 宮城県が北限地である. 宮城県のシロダモ分布図 (平吹 1990) をみると, シロダモは石巻以南の沿岸地と低丘陵地に広く分布するが, 内陸の数カ所と北限地の気仙沼市とに飛び離れて分布する. 気仙沼市大島 (当時は本吉郡大島村) のシロダモは古くから報告され (木村 1954, 太田 1954), 最近では気仙沼松岩からも記録されている (宮城県植物誌編集委員会 2001). 2005年にわれわれは気仙沼市と本吉町でアカガシの分布を調べた際に, 既知の大島 (北緯38度52分. 本文の緯度は国土地理院地図閲覧サービスの数値を基礎として, 30秒以上を1分に切り上げて分までの単位で示した) と松岩の他にも気仙沼市松崎浦田 (松岩もこの地区に含まれる) (北緯38度52分), 松崎高谷 (北緯38度52分), 赤岩老松 (北緯38度53分) および本吉町大谷小金沢 (北緯38度48分) でもおおよそ海拔60 m 以下の地点ではごくふつうにシロダモが生育していた. これらの地域ではアカガシが天然に自生する地点には必ずシロダモも自生することに気づいた (大橋他 2006). さらに気仙沼市の北, 宮

城県本吉郡唐桑町館 (北緯38度57分) でシロダモの自生を確認した. 新たな北限地である. 1本だけであったが, 高さ約8 m, 胸高直径20 cm, ヤブツバキに混ざって生育していた. その他に唐桑町中井 (北緯38度53分) でも小形の個体1株を確認した. 中井は大島北端のシロダモ生育地よりも僅かに緯度が低い.むしろこの地はシロダモの東限 (東経141度40分) にあたる.

唐桑町のシロダモの生育状態に比べると, 大島においては沿岸地から海拔100 m 位までのアカマツ林, スギ林, アカガシ林などにシロダモが数多く生育し, ほぼ全島に広く分布する. しばしば高木となり, 大島の亀山南南西斜面の熊野沢 (北緯38度52分, 東経141度37分) ではアカガシ林中のシロダモで樹高10 m, 胸高直径36 cm の個体もみられ, 樹高7-8 m の個体は島内でかなり多く見受けられた. 北限の植物とはいえ大島ではシロダモは雑木の一つであり, 道ばたでは切り倒され, 切り株から萌芽が成長しているものをよく見かけた (Fig. 1). 若い萌芽につくシロダモの葉は白みを帯びた赤紫色を呈し, 独特である.

一方, 日本海側では山形県が北限とされている (北村・村田 1987). しかし, 望月 (2000) の「秋田県植物分布図」をみると, 秋田県南西部に1カ所の産地が記録されている. これが天然分布であるならば, ここが日本海側北限であると同時に本州のシロダモ北